

第111回 火山噴火予知連絡会幹事会議事録

日 時：平成20年10月8日10時30分～12時00分

場 所：気象庁会議室

出席者：会 長 藤井

副会長 石原

幹 事 今給黎、植木、大島、池内、木股、清水、原、溝上（増子幹事代理）、横山、渡辺
オブザーバ 本橋、長谷部（内閣府）、長岡（文科省）、山里（気象研）

事務局 北川貞、舟崎、山崎（貴）、宮村、中澤、志賀、中村、長谷川、加藤、宮下、大賀、
小島、山際、飯野、井上、道端、藤松、山崎（伸）、甲斐、桜井

●事務局から

・幹事の出欠の紹介

文部科学省の増子幹事が欠席で、その代理に溝上専門官が出席

また、来年度以降の集中観測及び構造探査のあり方について説明してもらうため、九大の清水委員
に出席をお願いした。

・配布資料の確認

・前回議事録の確定版を配布

訂正等あれば事務局まで連絡頂きたい。

●国土技術政策総合研究所西本晴男危機管理技術センター長を新たに予知連委員に委嘱（資料①）

・西本氏を委員に委嘱した。

●火山噴火予知連絡会運営要綱の改定（資料②）

・前々回の予知連で了承された、部会に副部会長を置くことができるようにする改正は、手続きが終了し8月1日より実施。

●文科省 地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について（建議）について

・資料の説明

：今回の目玉は、地震と火山を統合したこと。

：予測システムをより明瞭にした。

：二つの計画を統合した四つの計画のポイント。

：地震本部と同様の組織を火山でも作るべき。

：観測体制等今後の体制について予知連で検討すべきと記述。

：火山監視観測網は予知連の検討結果を基に効率化・重点化を検討する。

：新聞等の報道もあるが、文科省としてなにか報道発表した事実はない。

・予知連との関連を主に説明いただいたが、予知連への要望がたくさん記載されている。

●「桜島における火山体構造探査の実施について」の報道発表について（資料③）

- ・資料の説明。

●今年度の気象庁機動観測実施状況について（資料④）

- ・資料の説明。

北海道 16 火山、東北 7 火山、関東 12 火山、九州 9 火山の計 44 火山で実施。

●気象庁が連続監視している 34 火山と観測点数について（資料⑤）

- ・資料の説明。

焼岳と鶴見岳・伽藍岳は今年度中に追加予定。

- ・焼岳は空欄になっているが何点か。

- ・北陸地方整備局と調整中。

●三宅島の火山ガス注警報の発令状況（資料⑥）

- ・資料の説明。

火山ガス警報、レベル 4 が 3 回出されている。

●立ち入り規制区域に立ち入る際の安全方策について

- ・噴火警報の発表を開始し、自治体が立ち入り規制等をしているところにやむを得ず入る場合について、気象庁が監視を行うことについて説明。

- ： 4 火山センターで充分監視

- ： 入山する場合、夜は避け、短い時間とする

- ： なにかあれば携帯や無線で連絡

- ： ヘルメット等の装備を用意

今回説明するのは、予知連委員、その他の研究者が入山の際、一報いただくと気象庁としても協力できる準備があるということ。

- ・前もってお願いすれば、監視してもらえるのか。

- ・自治体等に入山する旨の手続き等は必要である。

- ・気象庁の作業規程を作っていると思うが、見せてもらえるのか。

- ・ペーパーを用意できないのは、まだはっきり決まっていないから。法的にもまだ確認しきれていない。ここで話題にしたいのは、立ち入り規制地域に入る際は、なるべく安全に活動していただきたいと思う。

- ・この規制とは市町村が規制するものか。

- ・警戒地域と自治体の自主的な規制のことをいう。

- ・自治体により立ち入り規制と、気象庁の防災情報との間で、責任等を含めた法体系がわかりにくい。

- ・規制は自治体が行っている。入る際は気象庁に一報いただきたい。

- ・自治体への届け出は気象庁がするのか。

- ・研究者が自らする。

- ・その時は気象庁が監視しているから安全だと言っていいのか。

- ・あくまで規制をかけるのは自治体。気象庁は監視の立場から情報を提供したい。気象庁が監視して

いるから安全だとまではいえない。

- ・できるだけ研究者の安全確保をしたいとのことだろう。

●火山地域における噴気等調査検討会の状況について（資料⑦）

- ・資料の説明。

●衛星解析グループの活動状況について（資料⑧）

- ・資料の説明。

●伊豆部会（伊豆大島の火山活動に関する勉強会）について

- ・冊子を作成した。
 - ：シナリオについてツリーに分け作成
 - ：勉強会で提出いただいた資料についてもまとめた。

●火山活動評価検討会の検討状況について（資料⑨）

- ・資料の説明。

●火山観測体制等に関する検討会の検討状況について（資料⑩）

- ・資料の説明。
- ・10～12月開催の日程の目処は立っているのか。
- ・まだ決まっていない。
- ・これからコアで集まったあと検討会を開くのか。
- ・そうだ
- ・今回も聞かれると思うが、文部科学省の選定に落ちた火山をどうするのか。今日夕方の記者会見でも聞かれると思う。
- ・文科省として選定した事実はない。
- ・気象庁は34火山連続監視している。このなかに気象庁観測点が1点もない火山はほぼない。監視は引き続き出来る。
- ・気象庁が、大学が撤退しても十分に監視できるなら、そもそも大学が監視する必要は無いことになる。大学が法人化し予算が厳しい中で、大学は学術研究についてもより一層の「選択と集中」を求められている。火山研究は危機的状況であり、当方も内局予算や防災科学技術研究所による実質的な支援を検討している。この検討会でも火山研究の将来を考えたアイデアを出してほしい。
- ・気象庁の観測点があっても、監視が手薄になることは事実だ。
- ・こちらでも火山研究の将来に危機意識を持っている。しかしながら学術的理由では予算要求が非常に厳しい。監視のために必要ならば、気象庁から社会的要求を主張して予算を確保する方策を考えなければ、観測点の維持が困難になる。
- ・大学は研究を選択効率化する。もれた火山について監視が手薄になるので、気象庁が観測点を設置するなどして補う。
- ・法人化の問題点として、現在の大学の予算としては生活費が漸減し、特別に措置されているものは、

競争的資金等の教育研究成果を期待できるものにシフトしている。防災面を目的とした予算要求は文部科学省としては困難である。

- ・地元にとっては観測するのが大学でも気象庁でもいい。
- ・学術と防災では予算の出所が違う。学術の立場からは、大学には論文等の研究成果を期待しているが、マスコミ等を含め、本件での世間の大学への期待は必ずしもそこではない。
- ・気象庁は一点あるから大丈夫という姿勢はどうかと思う。
- ・予知連ができて以来、気象庁の観測は進展している。地震回数だけではなく、マグマのマイグレーションもとらえられるようになってきている。一点で万全というはずい。
- ・予算が無くなったので火山を絞らざるを得ないということを忘れないでほしい。さらに火山を減らされるのは研究能力の維持という点でもまずい。
- ・ここでの議論は本来検討会ですべきものと思う。気象庁と文科省のコアで集まって検討するようだが、コアでまとまらないと検討会を開かないというのは変である。まとまらなくてもいろいろな意見がもらえるので検討会を開いてみては。今後は、地震のように基盤的な観測網がないと厳しい。火山でも噴火があったときそのような観測網がないと対応出来ないのではないか。地震基盤観測網はそういう理由で導入した。予算はとれなくても認識を示す必要はある。
- ・気象庁は予算がなく消極的である。

●来年度以降の集中観測及び構造探査のあり方について（資料⑩）

- ・資料の説明。
表の上半分は集中観測。下半分は構造探査。
次の5カ年のキーワード「予測」
1枚目の下半分、予算があればインドネシアで噴火している火山にも実施したい。
- ・新たになるべく多くの火山を対象に行きたい。火山活動の多様化の理解のために。
- ・予算要求で気象庁の動きはどうか。
- ・来年度の概算要求の説明はできるか。
- ・VOISの更新が出ている。あと機動観測機材。
- ・更新は単年度か。
- ・22年6月完成予定。
- ・国土地理院の概算要求はどうなっているか。
- ・GPSの統合解析装置。気象庁からデータをいただければ統合処理が出来る。データのやりとりは気象庁と調整中。
- ・それができれば気象庁のすべてのデータを統合処理できるのか。
- ・動作確認は必要。リアルタイムではなく、予知連資料等で出すことはできると思う。
- ・防災科学技術研究所では浅間山の観測点整備が補正予算からは落ちてしまった。
- ・気象研究所でも噴火予知で出していないか。
- ・現在伊豆大島の観測研究を中心とした特別研究（5年計画の3年目）を実施してきており、これまで概算要求に盛り込んできていた。ただ、来年度は独立行政法人化の予定であり、運営費交付金に含まれるので明示されていない。研究は継続する予定。
- ・今後は概算要求についてまとめた資料を出してほしい。

3. 検討事項

- 九州地方の火山の専門家を新たに火山噴火予知連絡会幹事に委嘱することについて
 - ・資料の説明。
 - ・清水委員を九州担当幹事に委嘱したいがよろしいか。よければ本会議に諮りたい。
異議なし

4. 「全国の火山活動の評価」(案)

- ・資料の説明。
- ・十勝岳ではSARのデータは出るのか。
- ・SAR資料は出す。
- ・十勝岳のGPS等の観測によると、の等はSARのことか。
- ・そうだ。
- ・噴火について規模まで予測している火山がある。全体として見ると整合性が無いような気がするが。
- ・レベル1の「予想」と「可能性」表現については整理したい。
- ・噴火の規模を限定することについて、予測できるのか。影響範囲はいいが、規模まで予測出来るのか。
- ・レベルから対応する規模を記している。
- ・レベル導入時のシナリオを警報文に使っているので、並べて見ると違って見える。

5. 連絡事項

午後の定例会について確認する。

- ・全国の火山の検討は最初に浅間山、口永良部島、桜島、霧島(新燃)について検討し、北海道から九州の順に進める。
- ・記者会見時間18時00分からを予定(説明者は会長、副会長、火山課長)